津村禮次郎

〈能〉をひもとく

―謡う・囃す・舞う―

第一部 能の謡…謡本の記号・謡い方

第二部 囃子…笛・小鼓・大鼓・太鼓の特徴と音楽(譜)の仕組み

第三部 着付…「羽衣」の装束着けを見る

第四部 能《羽衣》…天女の舞を味わう

出演

お話と舞　津村禮次郎
地謡　永島　充
　　坂　真太郎
　　河井　美紀
羽衣ワキ　高橋　正光
笛　藤田　貴寛
小鼓　鳥山　直也
大鼓　安福　光雄
太鼓　小寺真佐人

進行

児玉　信

平成27年9月23日（水・祝）

蕨市立文化ホールくるる

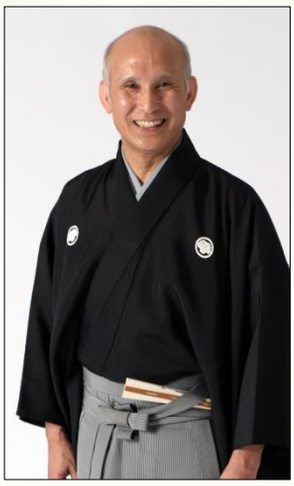
開場 午後1時半　開演 午後2時

チケット／全席自由2,000円
発売開始／8月8日（土）
チケット取扱い／くるる窓口・蕨市民会館
銀行振込・郵便振替
お問合せ／蕨市立文化ホールくるる
TEL／048-446-8311
主催／蕨市立文化ホールくるる　共催／蕨市・蕨市教育委員会
※駐車場はございません
※未就学児童の入場はご遠慮ください。

津村禮次郎　〈能〉をひもとく

ー 謡う・囃す・舞う ー

津村禮次郎（Tsumura Reijiro）



観世流シテ方　観世流緑泉会代表。重要無形文化財（能楽総合）保持者。1942年北九州市生まれ。一橋大学社会学部講師、二松学舎大学文学部講師、放送大学講師を勤める。朝日カルチャーセンター、読売日本テレビカルチャセンターで講師を勤める。

一橋大学在学中に女流能楽師の草分け津村紀三子に師事、その後先代観世喜之に師事する。1974年津村紀三子死去により緑泉会を継承代表会主となる。

緑泉会定例公演、今年37回に及ぶ小金井薪能公演のほか、佐渡での活動も30数年継続し、学生の指導及び公演を続ける。2012年古稀記念能で「鷺」「砧」の独演二番能を行う。創作活動も多く「一石仙人（アインシュタイン）」「仲麻呂」「トキ」など制作公演し、近年はダンスのアーテイストとコラボレーションも多い。「OKINA」（森山開次と共に）、「ひかり、肖像」（酒井はなと共に）。演劇では野田秀樹作品「桜の森の満開の下」「THE DIVER」などで所作指導。2011年新国立劇場の新作バレー「パゴダの王子」で所作指導。
ヨーロッパ諸国での公演、ワークショップも多く2010年度文化庁文化交流使としてロシア、ハンガリーに派遣され指導交流活動を続ける。またアジアにも目を向け2012年バリ芸術祭で地元音楽・舞踊作品「バスール物語」を制作公演。2013年9月には文化庁の使節として韓国公演、11月バリで地元アーテイストと公演。2014年2月森山開次、デワ・アリットと「HAGOROMO」公演。8月第36回小金井薪能で「THE KUMANO」を公演、引き続き10月に熊野本宮大社・大斎原で公演。2015年6月ドキュメンタリー映画「躍る旅人・能楽師津村禮次郎の肖像」（三宅流監督）が公開される。

東日本大災害には復興支援のボランテイア活動を行い、仙台、福島、陸前高田、石巻訪問。瓦礫処理に絡み「はなさかじじいず」プロジェクトに参加。

1988年に地元小金井市より市民功労賞を受ける。2011年12月出身地北九州市より市民文化賞を受賞。2012年3月モスクワにて国立マールイ劇場及び国立シェープキン演劇大学より文化交流活動に対して表彰を受ける。

著作に「能がわかる100のキーワード」「能狂言図典」、写真集「舞幻」。

児玉信（KodamaMakoto）

能楽評論家。1946年生まれ、浜松市出身。蕨市在住。
國學院大学在学中から芸能学会（折口信夫が創立）の機関誌「月刊　藝能」の編集に携わる。のち能楽観世流の機関誌「月刊　観世」の編集部に入り、編集主任を経てフリーで活動。日本大学芸術学部演劇学科・実践女子大学文学部美学美術史学科講師、邦楽プロデューサー。著書に『ぶらり東海道五十三次芸能ばなし』『日本の伝統芸能　能と狂言』ほか、共著に『東海道人と文化の万華鏡』ほかがある。